

第4次館山市総合計画策定

# 館山市WEBアンケート 報告書

平成27年3月



## 目次

1. 調査の設計	1
(1) 調査の趣旨	1
(2) 調査の方法	1
2. 調査結果	2
(1) 回答者プロフィール	2
① 年代	2
② 居住年数	2
③ 家族構成	3
④ 職業	3
⑤ 出身地	4
(2) 館山市について	5
① 認知度	5
② 訪問回数	5
③ 同行者	6
④ 館山市への訪問を決めた人	6
⑤ 館山市への訪問を決めた人の年代・性別	7
⑥ 情報入手手段	8
(3) 館山市の観光について	10
① 来訪時期	10
② 宿泊動向	11
③ 宿泊日数（総数）	12
④ 館山市内での宿泊日数	12
⑤ 立ち寄った市町村	13
⑥ 館山市までの交通手段	13
⑦ 市内での交通手段	14
⑧ 観光の期待度と満足度	15
⑨ 特に良かったところ・悪かったところ	17
⑩ 全体的な満足度	18
⑪ 再訪の意向	18
⑫ 観光資源の認知度	19
⑬ 館山市のイメージ	20
(4) 国内旅行一般について	20
① 1年間の国内旅行の回数	20
② 国内旅行1人あたりの予算	21
(5) 移住について	22
① 転出理由	22
② Uターン希望・実現に必要なこと	23

# 1. 調査の設計

## (1) 調査の趣旨

第4次館山市総合計画を策定するにあたり、首都圏などから見た館山市、観光客から見た館山市のイメージ・位置づけを把握するために実施するもの。

## (2) 調査の方法

### (ア) 調査対象

- ①千葉県内の右記の地域（市川市、浦安市、松戸市、柏市、流山市）
- ②首都圏在住者（東京都、神奈川県、埼玉県、茨城県）

県内	市川市	浦安市	松戸市	柏市	流山市
1000	全体で 1000				
県外	東京都	神奈川県	埼玉県	茨城県	
1000	250	250	250	250	

### (イ) 調査方法

- ・インターネット調査会社にモニターとして登録している会員に対してアンケートを依頼した。
- ・男女比は半々となるように回収した。

### (ウ) 調査時期

平成 26 年 11 月 20 日～11 月 23 日

### (エ) 調査結果の見方

- ・集計結果は各設問の標本数を 100%とした百分比 (%) で表示した。原則として小数点第 2 位を四捨五入してあるため、その結果としてこの比率の合計が 100%にならないこともありうる。
- ・1 人の回答者に 2 つ以上の回答を認めた設問では、百分比 (%) の合計は、100%を上回る場合がある。
- ・本文中の「n」はその設問についての有効回答数を示している。
- ・文中の「SA」、「MA」は以下の略称である。
- ・「SA」(Single Answer) : 単一回答形式
- ・「MA」(Multiple Answer) : 複数回答形式
- ・本文中のグラフ、表中の選択肢は、見やすさに配慮するために、語句を簡略化した表記としてある場合がある。
- ・本文中のグラフは、見やすさを配慮し、複数のものをまとめてある場合がある。

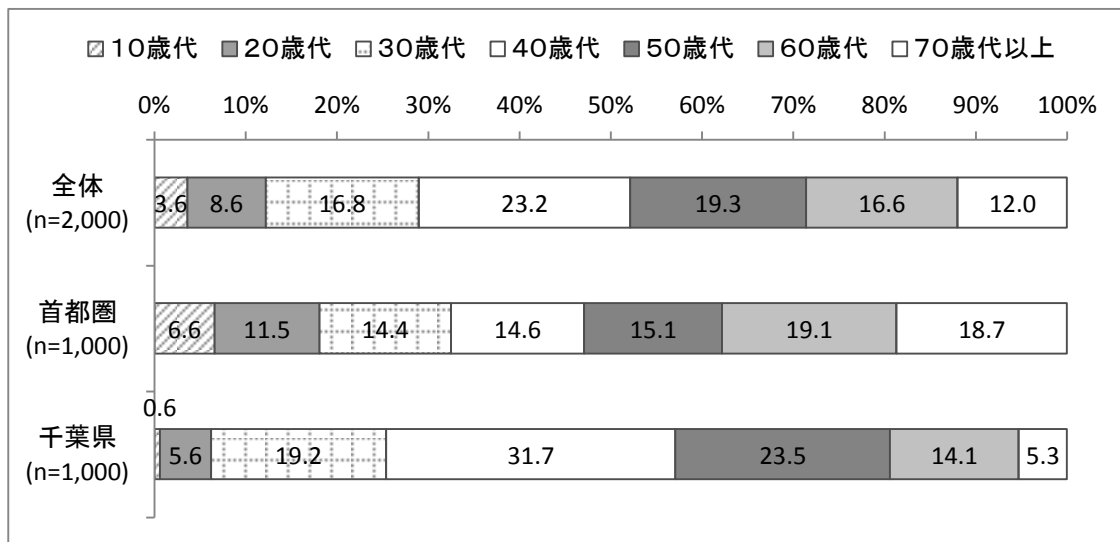
## 2. 調査結果

### (1) 回答者プロフィール

#### ① 年代

- ・ 回答者の年代は、「40 歳代」が最も割合が高く、次いで「30 歳代」と「50 歳代」がほぼ同割合となった。
- ・ 首都圏の回答者は 50 歳以上が半数を超え、千葉県では「30 歳代」と「40 歳代」で半数を占めた。千葉県では「10 歳代」はほとんどみられなかった。

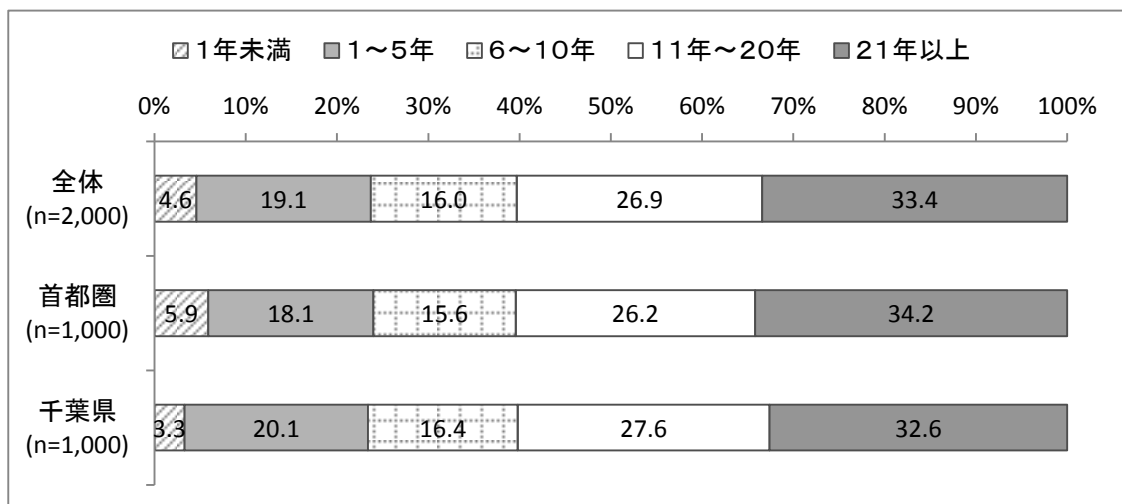
図表番号 1 年代



#### ② 居住年数

- ・ 回答者の居住年数は「21 年以上」が最も割合が高く、次いで「11～20 年」となった。
- ・ 回答者の居住地による差はほとんどみられなかった。

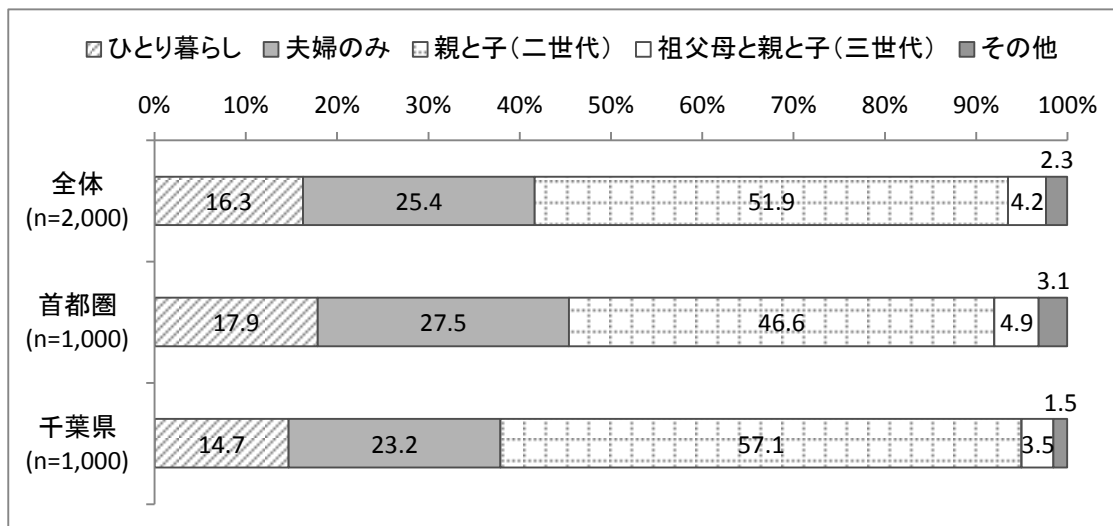
図表番号 2 居住年数



### ③ 家族構成

- ・ 回答者の家族構成は、「親と子」の二世帯が半数を占め、次いで「夫婦のみ」となった。
- ・ 首都圏より、千葉県のほうが二世帯の割合が高くなった。

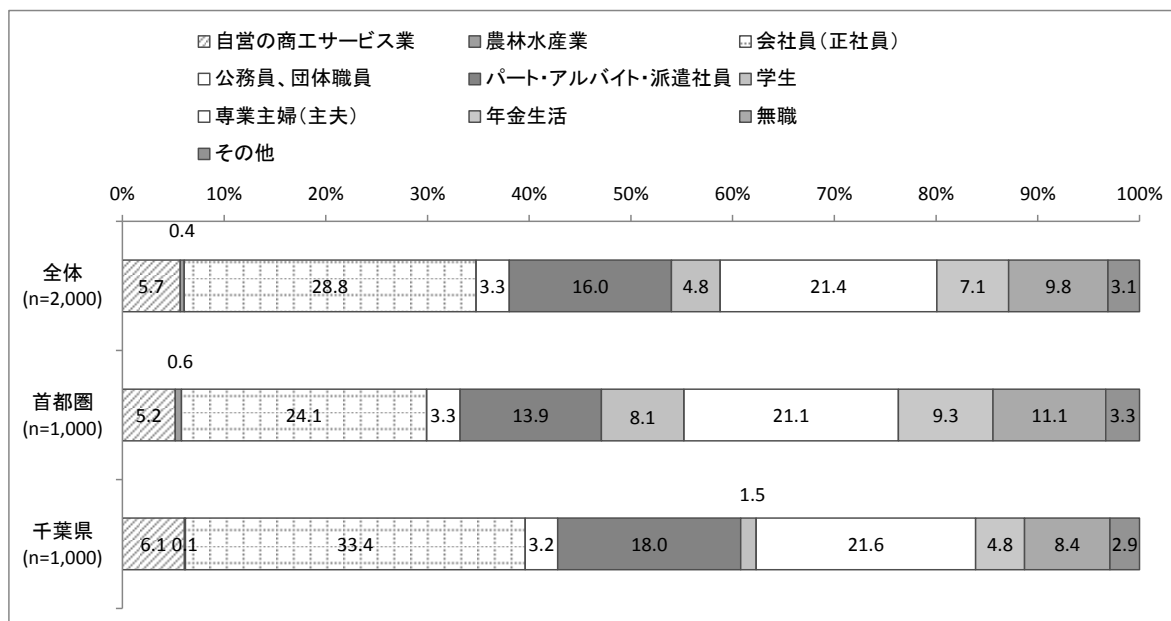
図表番号 3 家族構成



### ④ 職業

- ・ 回答者の職業は、「会社員」が最も割合が高く、次いで「専業主婦（主夫）」となった。
- ・ 首都圏より、千葉県のほうが「会社員」の割合が高く、首都圏では「学生」や「無職」、「年金生活」の割合が高くなった。

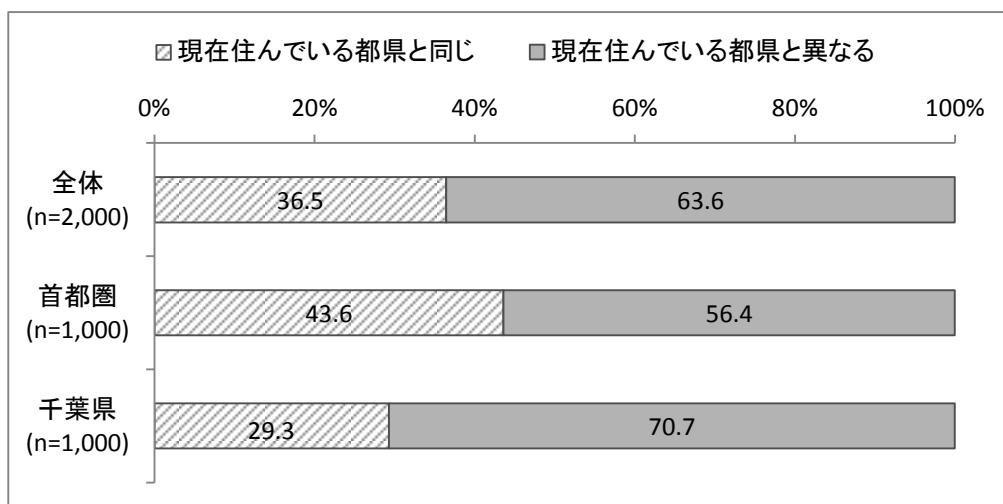
図表番号 4 職業



### ⑤ 出身地

- ・ 出身地は、「現在住んでいる都県と異なる」が半数6割を超えた。
- ・ 首都圏のほうが、千葉県より、「現在住んでいる都県と同じ」が高かった。
- ・ 千葉県は7割が他県から転入してきていた。

図表番号 5 出身地



- ・ 出身地を都道府県別に上位10位で見ると、「東京」都が最も割合が高く、「神奈川県」、「埼玉県」、「北海道」と続いた。
- ・ 首都圏では、「東京都」に次いで「北海道」、「千葉県」、「新潟県」となった。
- ・ 千葉県では、「東京都」が2割を超えて顕著に高く、上位は首都圏で占められた。

図表番号 6 出身地(都道府県別 上位10位)

単位: %

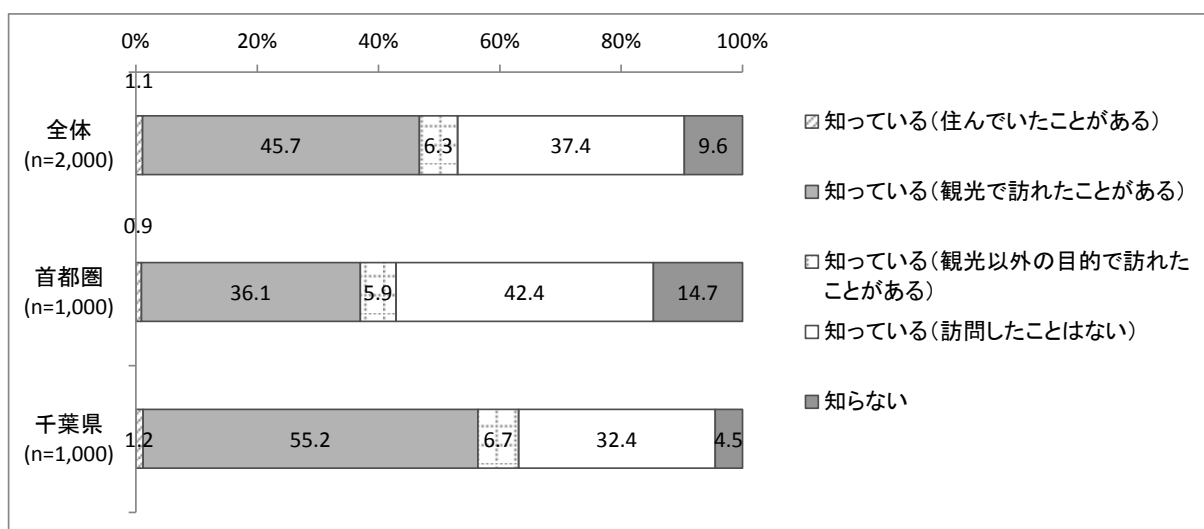
	全体(n=2,000)		首都圏(n=1,000)		千葉県(n=1,000)	
1	東京都	17.2	東京都	11.0	東京都	23.4
2	神奈川県	3.2	北海道	2.7	神奈川県	4.2
3	埼玉県	2.8	千葉県	2.5	茨城県	3.5
4	北海道	2.7	新潟県	2.4	埼玉県	3.4
5	大阪府	2.6	大阪府	2.3	大阪府	2.8
6	茨城県	2.4	埼玉県	2.2	北海道	2.6
7	新潟県	2.3	神奈川県	2.2	新潟県	2.2
8	愛知県	1.8	群馬県	2.0	愛知県	2.1
9	長野県	1.7	長野県	1.8	兵庫県	1.9
10	兵庫県	1.7	福島県	1.5	福岡県	1.9

## (2) 館山市について

### ① 認知度

- ・ 館山市の認知度は、“知っている”は9割を超え、認知度は高かった。
- ・ 首都圏では、“知っている”の割合は85.3%と、千葉県より低かった。
- ・ “知っている”の内訳では、「観光で訪れたことがある」は千葉県では半数を超え、首都圏では「知っているが訪問したことはない」が最も割合が高く4割を占めた。

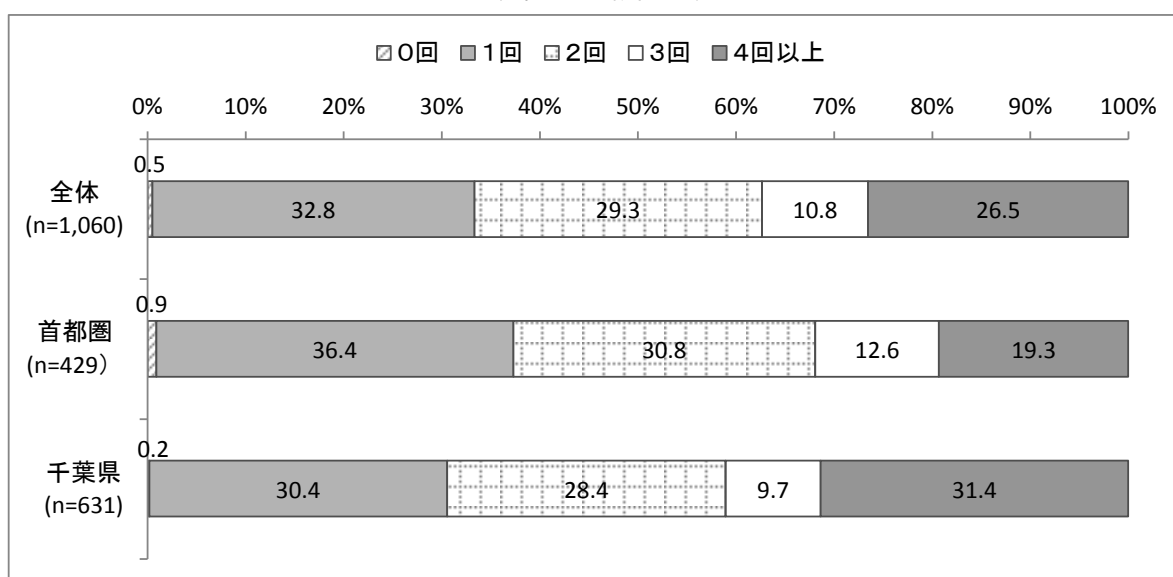
図表番号 7 館山市の認知度



### ② 訪問回数

- ・ 訪問経験のある回答者（「住んでいたことがある」も含む）の観光等による訪問回数は、「1回」が最も割合が高かった。
- ・ 首都圏と千葉県を比較すると、特に、「4回以上」の割合が千葉県で高かった。

図表番号 8 訪問回数



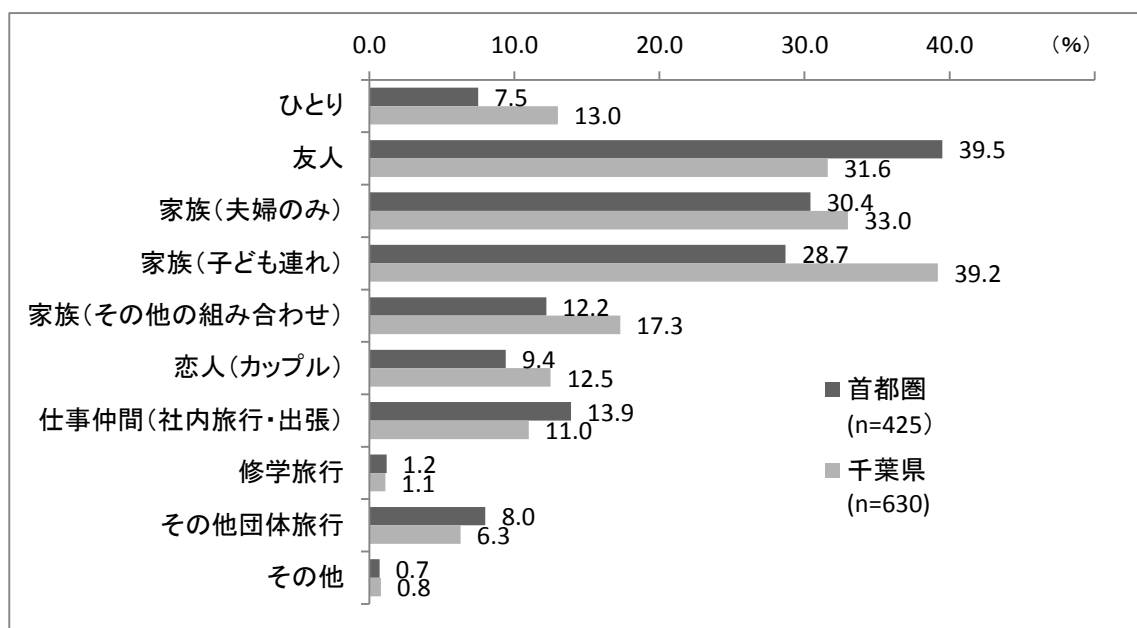
※「住んでいたことがある」で「観光目的で訪問したことはない」場合、訪問回数の回答は「0回」となる。



### ③ 同行者

- ・ 館山市への同行者は、首都圏では「友人」が最も割合が高いが、千葉県では「家族（子ども連れ）」が最も割合が高い。千葉県では、“家族連れ”の割合が高いのに対して、首都圏では「友人」や「仕事仲間」、「団体旅行」が千葉県より高くなった。

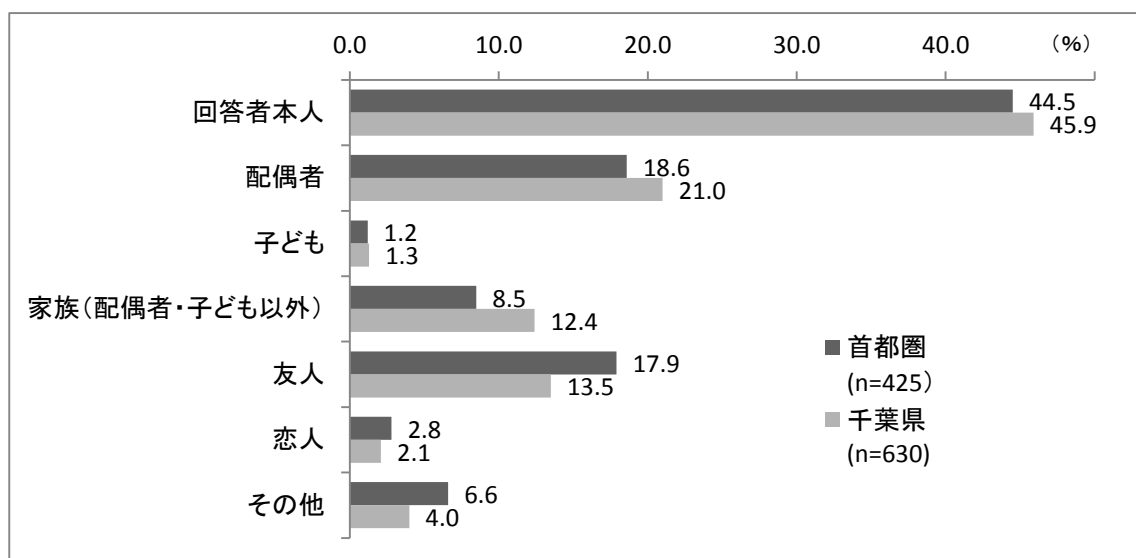
図表番号 9 同行者



### ④ 館山市への訪問を決めた人

- ・ 館山市への訪問を決めた人は、「回答者本人」が最も割合が高かった。
- ・ 首都圏では、「友人」の割合が千葉県に比べて高かった。

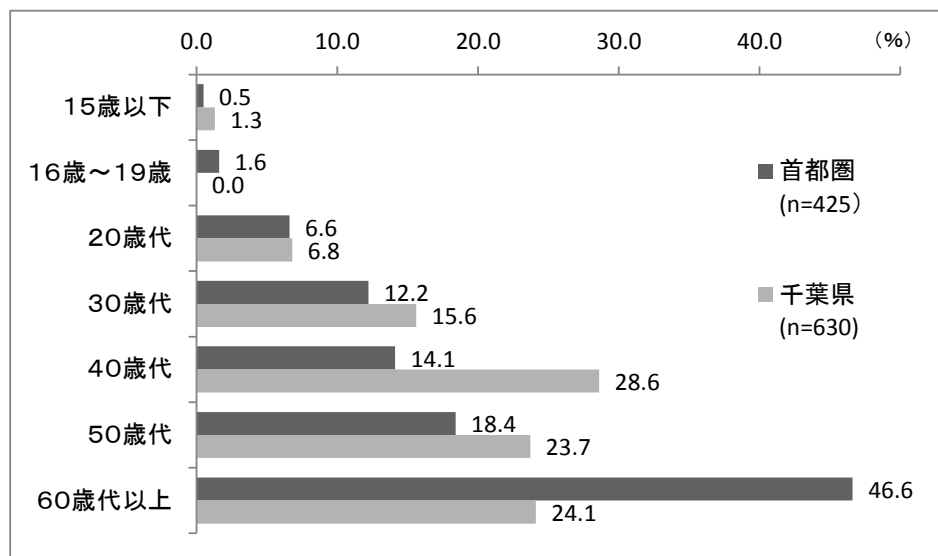
図表番号 10 館山市への訪問を決めた人



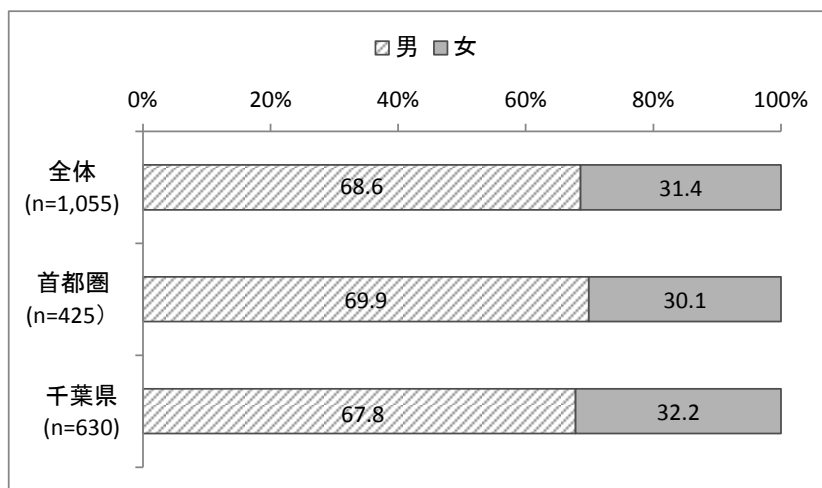
### ⑤ 館山市への訪問を決めた人の年代・性別

- ・ 館山市への訪問を決めた人は、首都圏では「60歳代以上」が最も割合が高く、千葉県では「40歳代」が最も割合が高かった。
- ・ 19歳以下の未成年の割合は低かった。
- ・ 訪問を決めた人の性別は、首都圏、千葉県とも「男性」が約7割を占め、違いはみられなかった。

図表番号 11 訪問を決めた人の年代



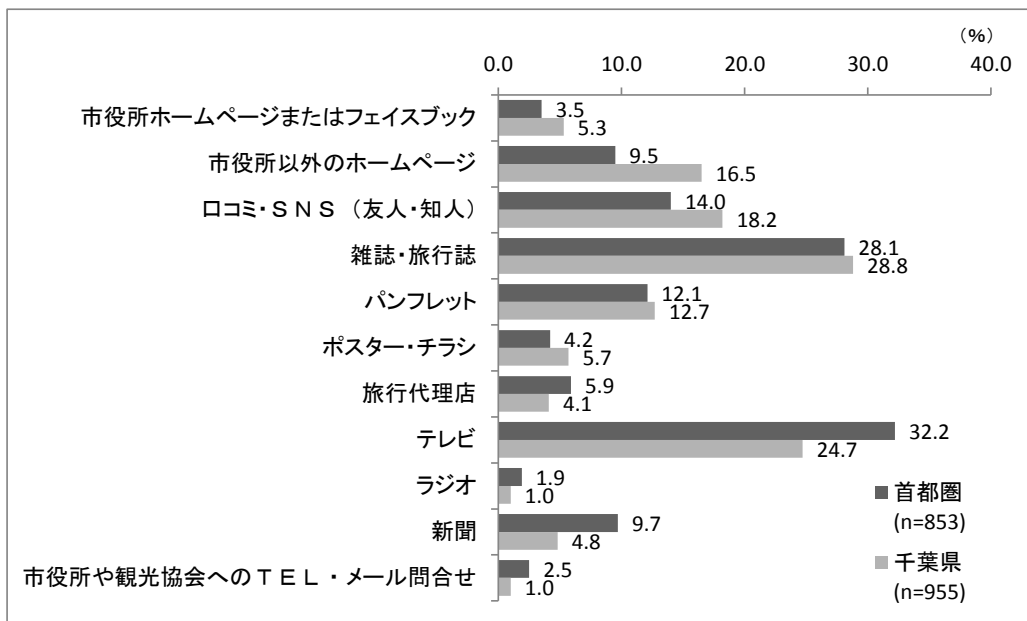
図表番号 12 訪問を決めた人の性別



## ⑥ 情報入手手段

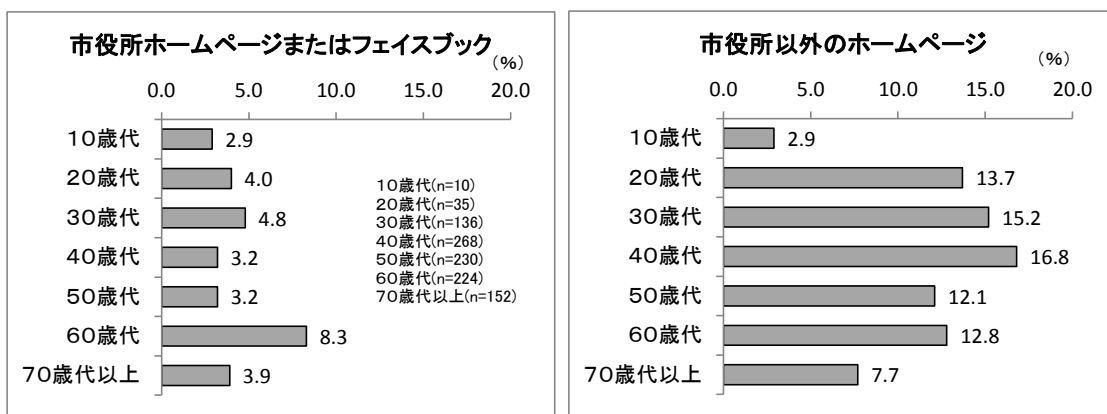
- ・ 館山市の情報入手手段は、首都圏では「テレビ」が最も割合が高く、「雑誌・旅行誌」、「ロコミ・SNS」、「市役所以外のホームページ」が続いている。千葉県では、「雑誌・旅行誌」が最も割合が高く、次いで「テレビ」、「市役所以外のホームページ」が続いた。

図表番号 13 情報入手手段



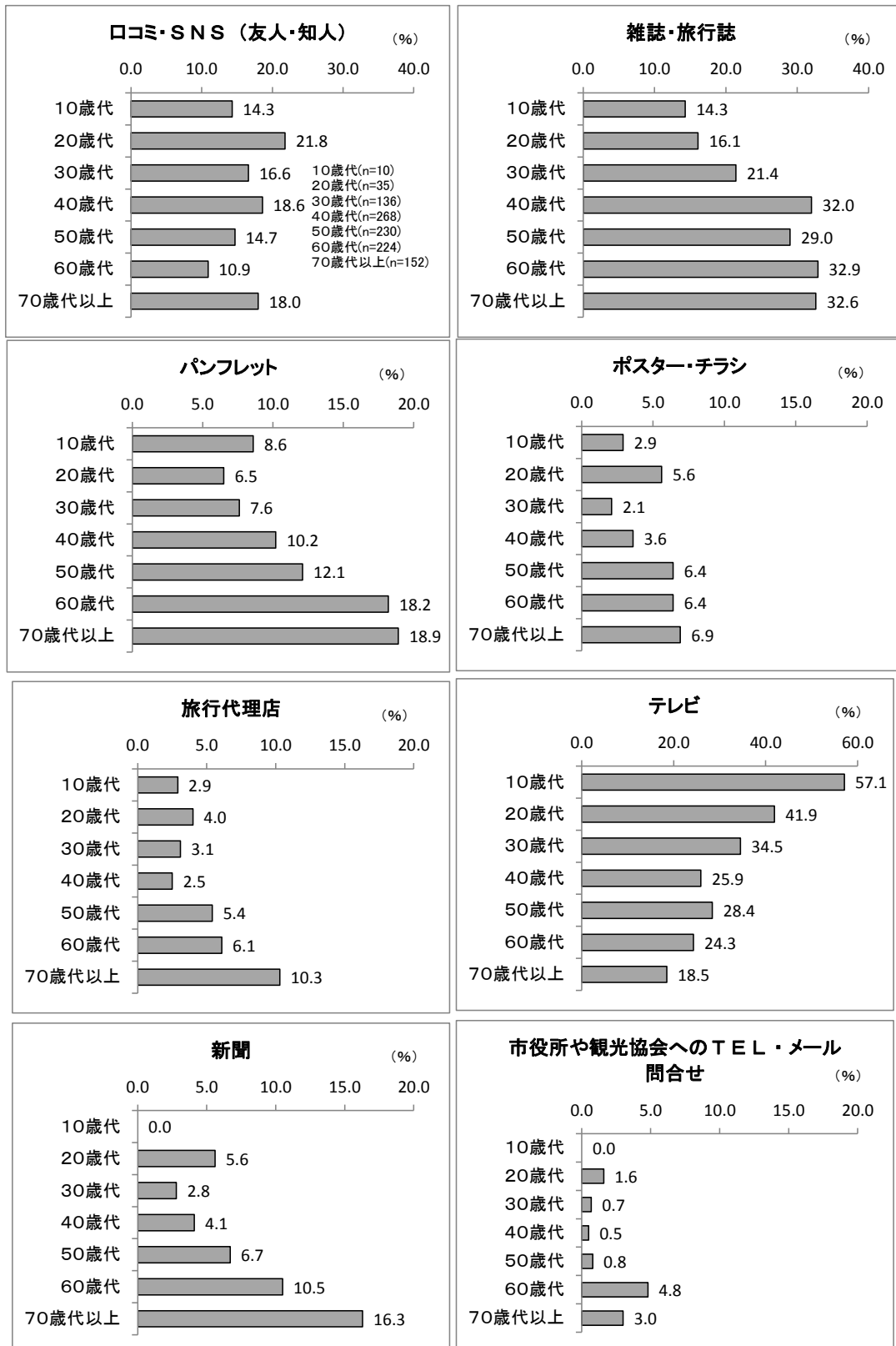
- ・ 情報入手手段を年代別にみると、「市役所ホームページまたはフェイスブック」は、割合は少ないが、60歳代が最も高い。「市役所以外のホームページ」では20～40歳代の割合が高かった。

図表番号 14 情報入手手段-1(年代別)



- ・「雑誌・旅行誌」や、「パンフレット」、「新聞」などの紙媒体は、年齢が上がるほど割合が高くなった。
- ・「テレビ」は若い世代ほど割合が高かった。

図表番号 15 情報入手手段-2(年代別)

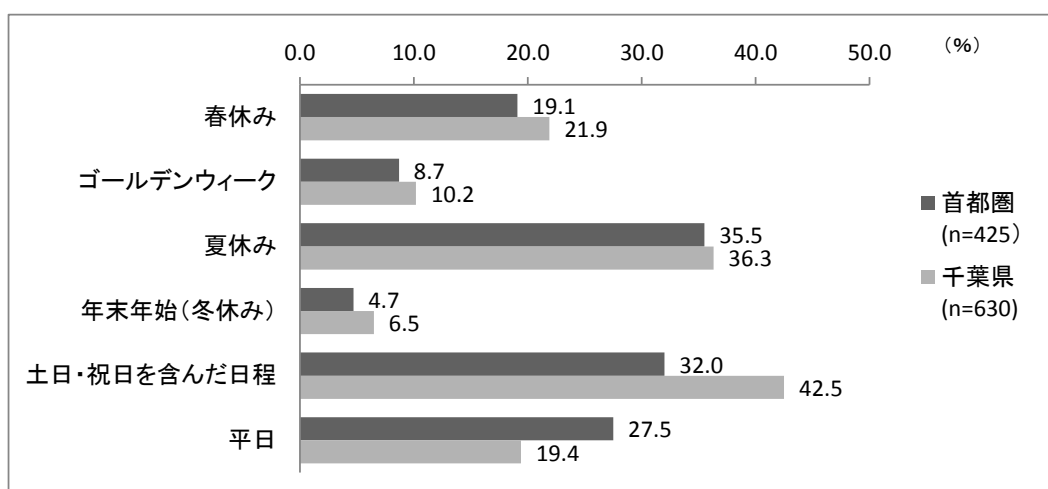


### (3) 館山市の観光について

#### ① 来訪時期

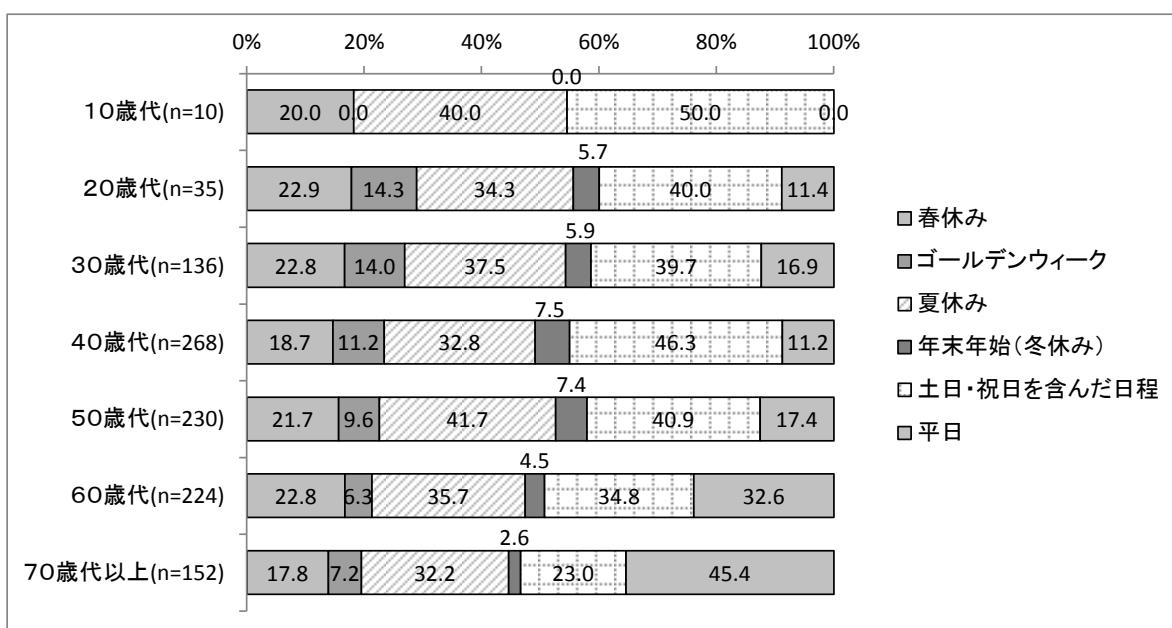
- ・ 来訪時期は、首都圏では「夏休み」が最も割合が高く、「土日・祝日を含んだ日程」、「平日」と続いた。
- ・ 千葉県では「土日・祝日を含んだ日程」が最も高く、「夏休み」、「春休み」と続いた。
- ・ 「土日・祝日を含んだ日程」では、千葉県が首都圏を大きく上回っており、「平日」は首都圏が千葉県を上回った。

図表番号 16 来訪時期



- ・ 来訪時期を年代別にみると、「平日」は年齢が上がるほど高くなった。
- ・ 「土日・祝日を含んだ日程」は 40 歳代で高く、「ゴールデンウィーク」は 20～30 歳代で高かった。

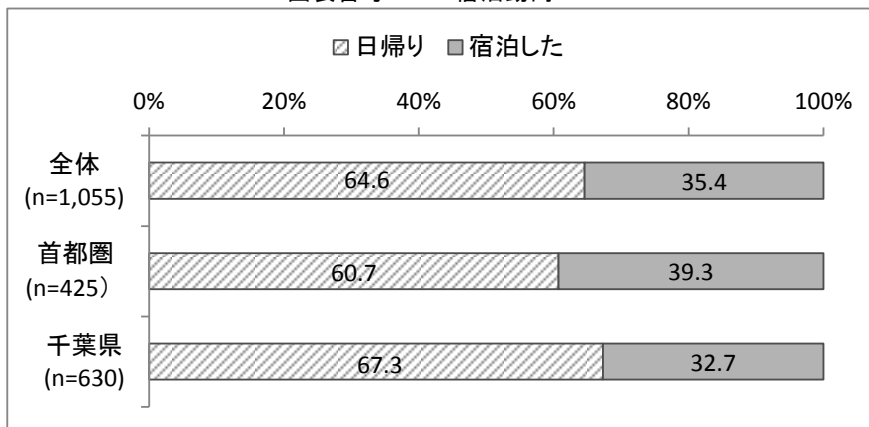
図表番号 17 来訪時期(年代別)



## ② 宿泊動向

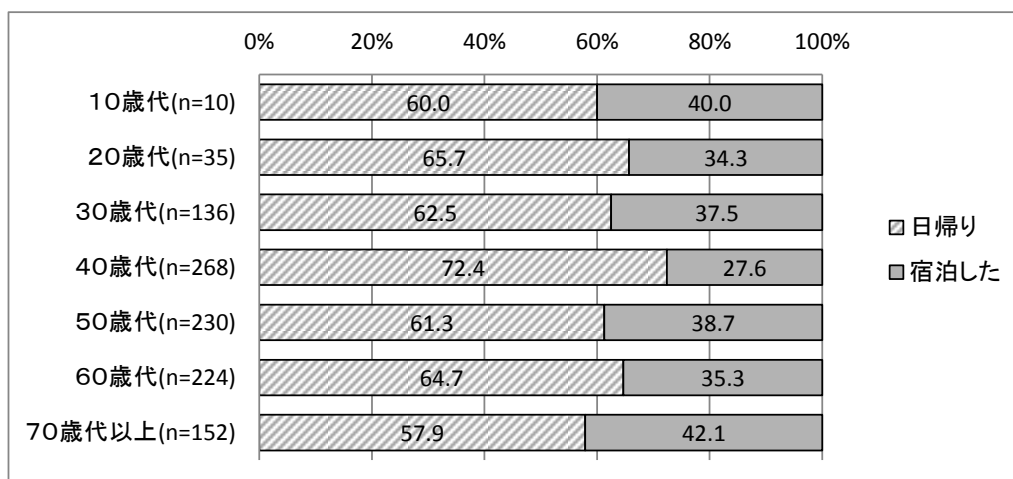
- ・ 宿泊の動向は、首都圏では6割が「日帰り」、4割が「宿泊」、千葉県では首都圏と比べて「日帰り」がやや多くなった。

図表番号 18 宿泊動向



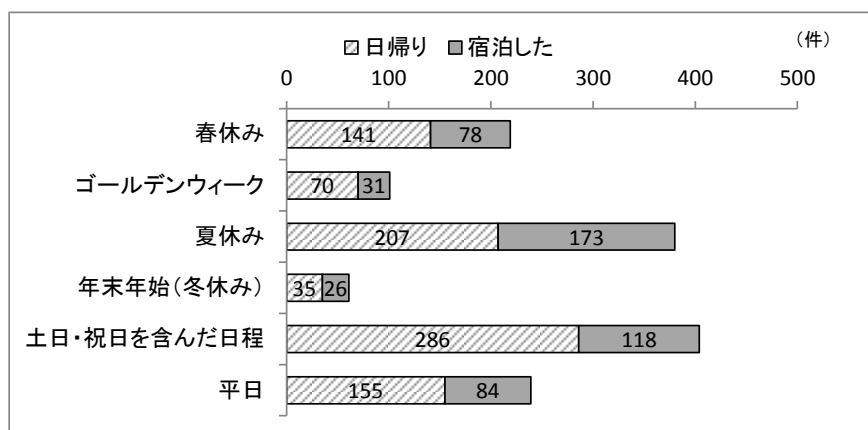
- ・ 年代別にみると、「日帰り」は40歳代で最も高く、「宿泊」は70歳以上で最も高かった。

図表番号 19 宿泊動向(年代別)



- ・ 来訪時期別にみると、来訪件数は「土日・祝日を含んだ日程」が最も多く、「夏休み」が続いているが、宿泊件数は「夏休み」が最も多かった。
- ・ 「平日」の宿泊の割合は「土日・祝日を含んだ日程」よりも高かった。

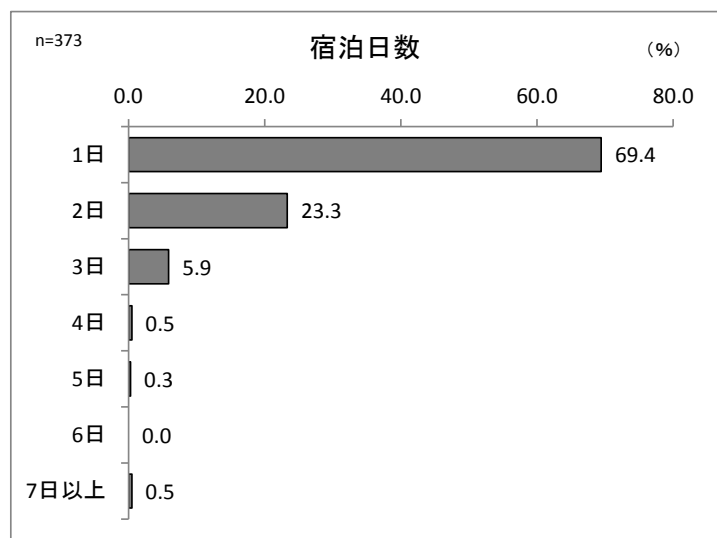
図表番号 20 宿泊動向(来訪時期別)



### ③ 宿泊日数（総数）

宿泊日数（総数）は「1日」が7割を占めた。

図表番号 21 宿泊日数



### ④ 館山市内での宿泊日数

- ・ 宿泊日数のうち、館山市内での宿泊日数の割合をみると、宿泊日数が「2日」のうち、2日とも館山市に宿泊した割合は54.0%、宿泊日数が「3日」のうち3日とも館山市に宿泊した割合は40.9%となった。
- ・ 少数だが、4日以上宿泊する場合は、すべての日数が館山市内での宿泊となった。

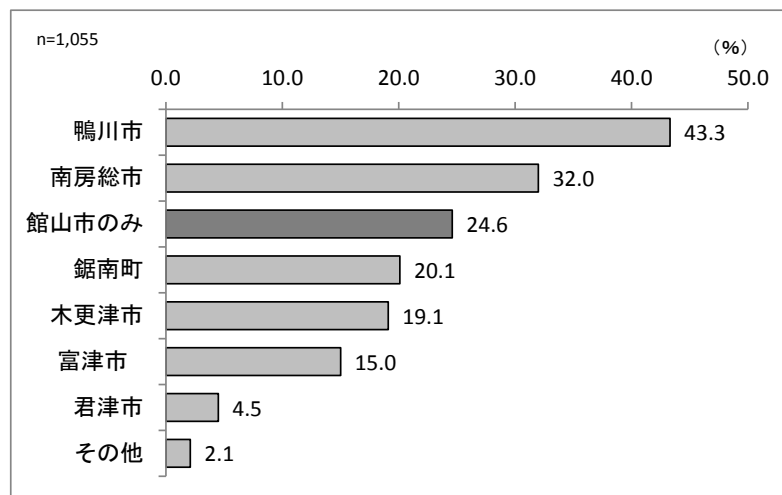
図表番号 22 館山市内の宿泊日数(宿泊日数総数別)

		館山市内での宿泊日数						
		1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日以上
宿泊日数総数	1日(n=259)	100.0	-	-	-	-	-	-
	2日(n=87)	46.0	54.0	-	-	-	-	-
	3日(n=22)	54.5	4.5	40.9	-	-	-	-
	4日(n=2)	-	-	-	100.0	-	-	-
	5日(n=1)	-	-	-	100.0	-	-	-
	7日以上(n=2)	-	-	-	-	-	-	100.0

### ⑤ 立ち寄った市町村

- ・ 館山市訪問の際に立ち寄った市町村で最も割合が高いのは「鴨川市」で約4割、次いで「南房総市」で約3割となった。
- ・ 「館山市のみ」は全体の4分の1となった。

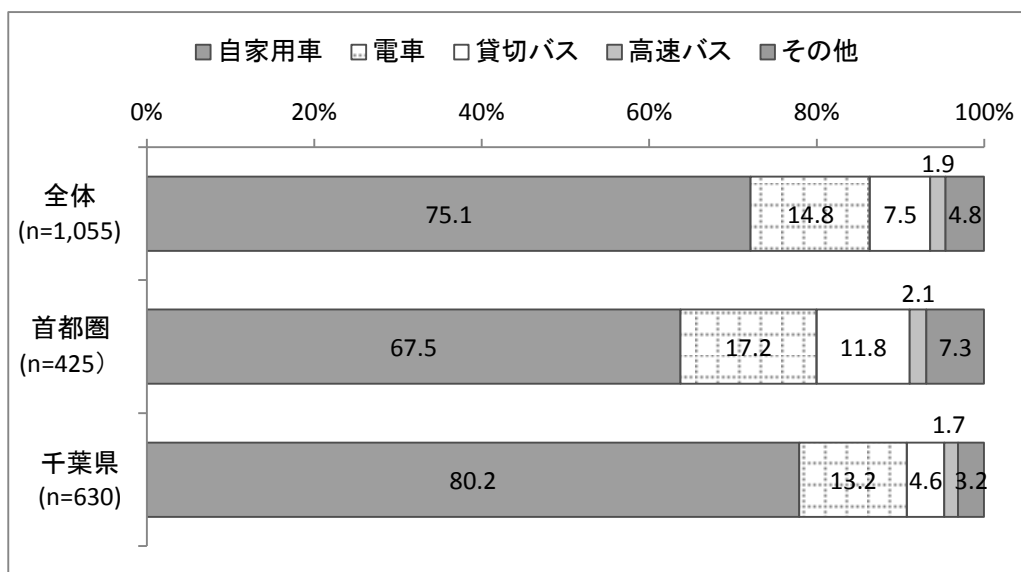
図表番号 23 立ち寄った市町村



### ⑥ 館山市までの交通手段

- ・ 館山市までの交通手段は「自家用車」の割合が最も高く、「電車」が続いた。
- ・ 「自家用車」の割合は、首都圏より千葉県の方が高く、千葉県では8割を占めた。
- ・ 首都圏では「貸切バス」が11.8%となり、千葉県より高かった。
- ・ 「高速バス」の割合は「電車」や「貸切バス」より少なかった。

図表番号 24 館山市までの交通手段

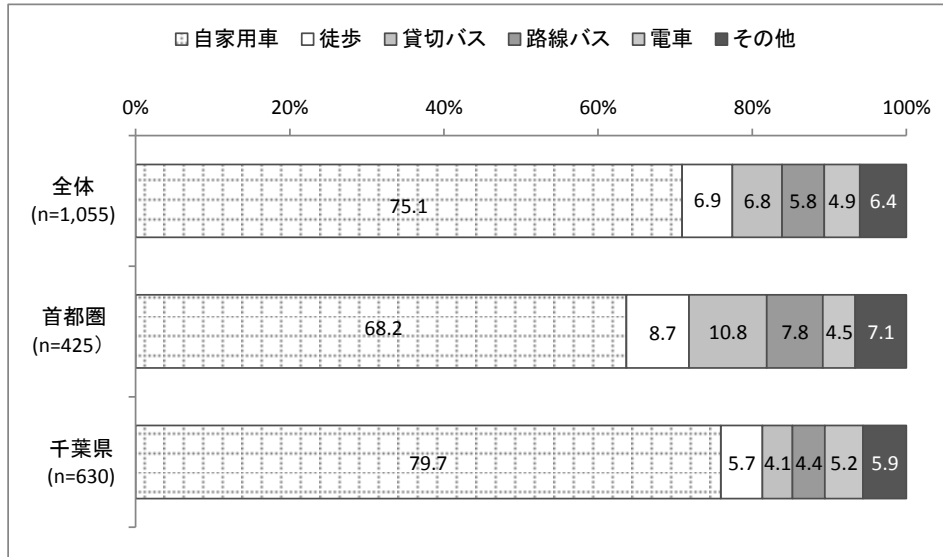




### ⑦ 市内での交通手段

- ・ 館山市内での交通手段は「自家用車」が最も割合が高いが、「路線バス」や「徒歩」、「電車」なども一定割合みられた。

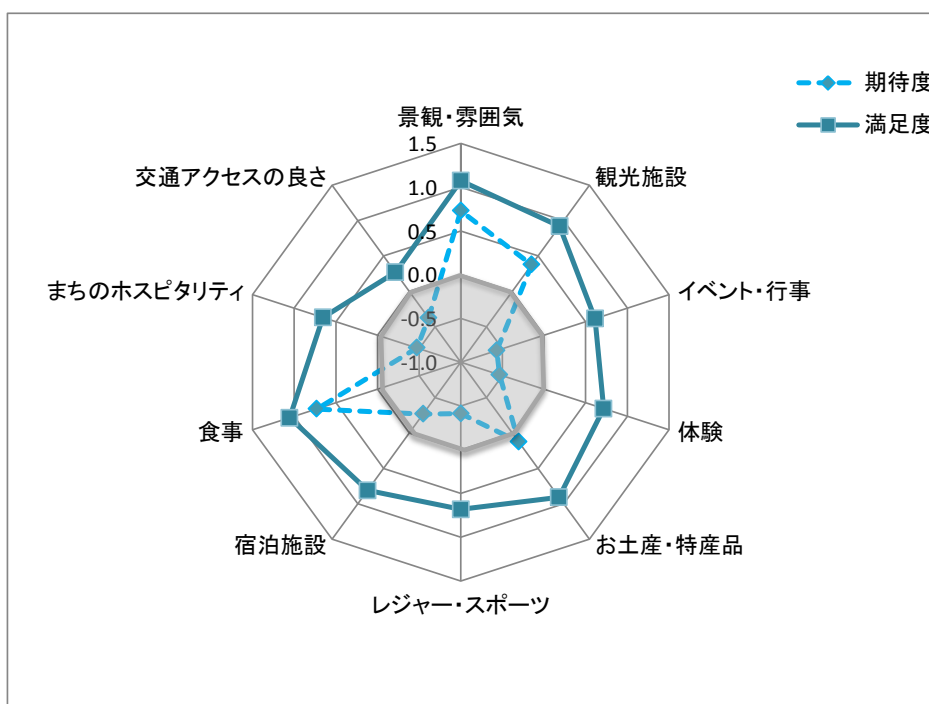
図表番号 25 市内での交通手段



## ⑧ 観光の期待度と満足度

- ・観光の期待度<sup>※1</sup>と満足度<sup>※2</sup>を指数化して比較すると、すべての項目について、期待度より満足度が上回っており、満足度でマイナス（不満が高い）の項目はなかった。
- ・期待度と満足度の差が少ない項目は「食事」、「景観・雰囲気」であり、これらの項目は他の項目に比べて期待度が高い。
- ・期待度と満足度の差が大きい項目は「体験」、「イベント・行事」となった。

図表番号 26 観光の期待度と満足度(全体)



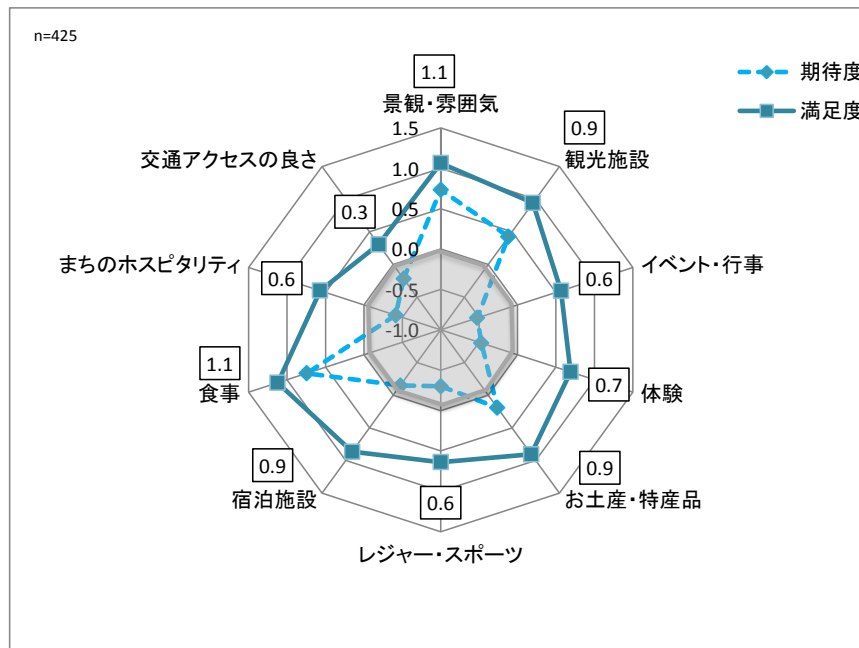
※1 期待度指数：((大いに期待していた×2) + (少し期待していた×1) + (あまり期待していなかった×(-1)) + (期待していなかった×(-2))) ÷ 回答者総数

※2 満足度指数：((大変満足×2) + (まあ満足×1) + (やや不満×(-1)) + (大変不満×(-2))) ÷ (回答者総数—どちらともいえない)

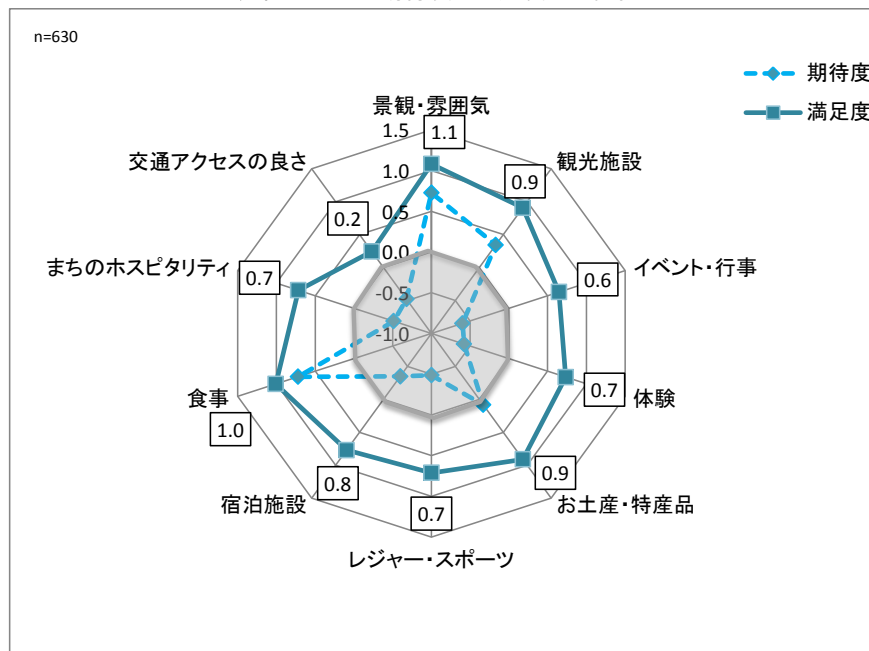
### a. 首都圏と千葉県の期待度と満足度

- ・ 期待度の高い項目は「景観・雰囲気」、「食事」であり、これらは満足度も高い。
- ・ 首都圏の期待度と満足度は、すべての項目で期待度を満足度が上回った。
- ・ 「期待度」に比べて「満足度」の割合が大幅に高くなっている項目は「体験」、「イベント・行事」、「まちのホスピタリティ」となった。
- ・ 首都圏と千葉県で、全体的な傾向に大きな違いはなかった。

図表番号 27 期待度と満足度(首都圏)



図表番号 28 期待度と満足度(千葉県)



### ⑨ 特に良かったところ・悪かったところ

- ・良かったところについては576件、悪かったところについては295件の意見があった。
- ・良かったところの上位は「食事」や「景観」、「海」などとなった。良かったところとして挙げられた項目には、館山市内でない観光地も含まれていた。
- ・悪かったところの上位は「渋滞」、「交通」、「遠い」、「食事」などとなった。
- ・悪かったところとして挙げられた項目には、「魅力がない」、「さびれている」などの評価も含まれていた。

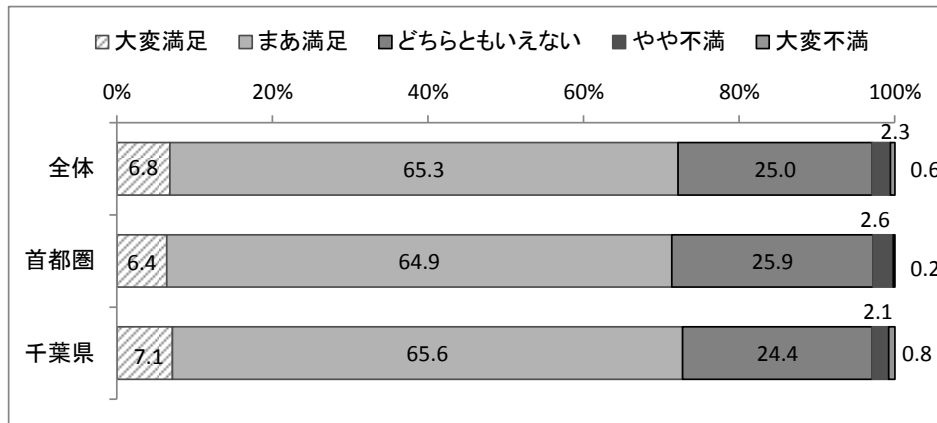
図表番号 29 特に良かったところ・悪かったところ(5件以上のみ)

順位	良かったところ	件数	順位	悪かったところ	件数
1	食事(新鮮な海産物など)	138	1	渋滞	61
2	景観	102	2	交通(バス、電車など)	44
3	海	78	3	遠い	28
4	花	26	4	食事	17
	気候	26	5	アクセス	13
6	自然	24	6	道路(狭い、わかりにくいなど)	12
7	宿泊	23	7	宿泊施設	11
8	ゆっくり	13	8	面白くない(魅力がない)	8
9	空いていた	12	9	さびれている	7
10	その他	10		観光地少ない	7
	のどか	10	11	店少ない	6
12	道路	8		不便	6
13	人	7	13	殺風景	5
14	いちご	6			
	近い	6			
	空気	6			
17	鴨川シーワールド	5			
	子連れ	5			
	道の駅	5			
	雰囲気	5			

### ⑩ 全体的な満足度

- ・ 全体的には7割が“満足”と回答した。
- ・ 居住地による差は、ほとんどみられなかった。

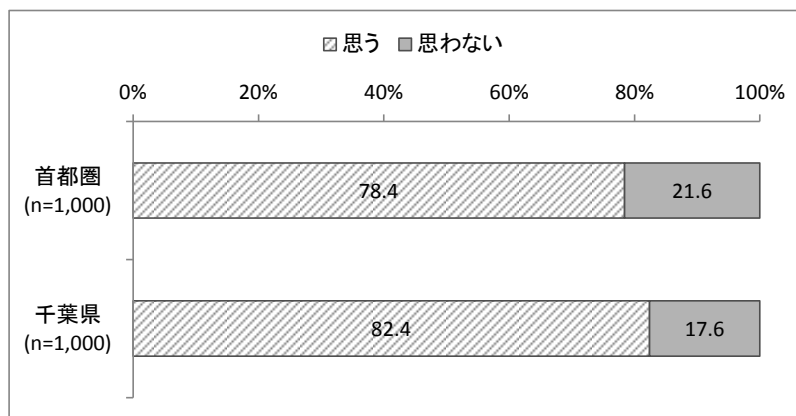
図表番号 30 全体的な満足度



### ⑪ 再訪の意向

- ・ 再訪の意向については、約8割が「また来たいと思う」と回答した。
- ・ 首都圏より千葉県のほうがやや割合は高くなった。

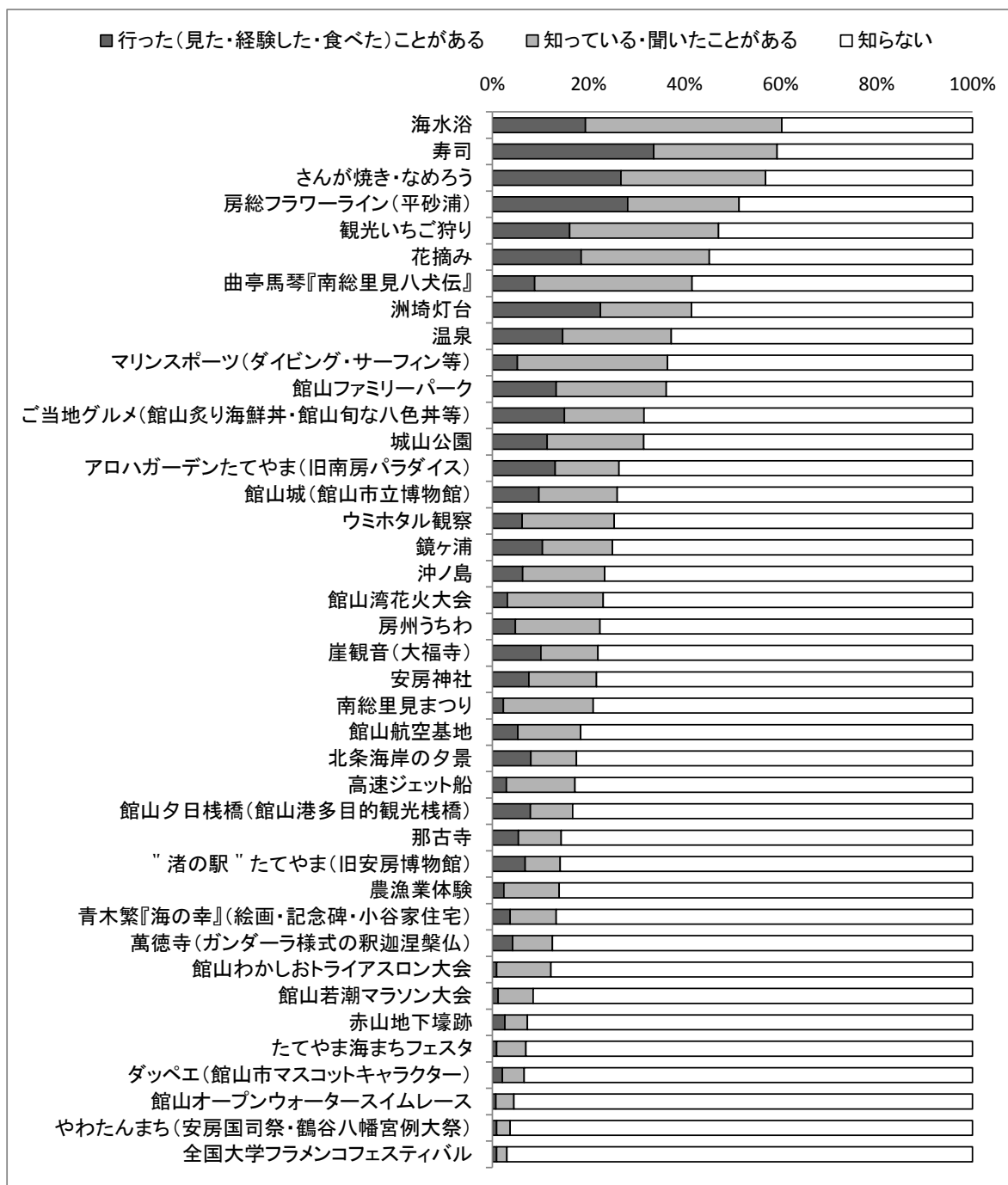
図表番号 31 再訪の意向



## ⑫ 観光資源の認知度

- ・ 認知度が高い観光資源は「海水浴」、「寿司」、「さんが焼き・なめろう」、「房総フラワーライン」、「観光いちご狩り」、「花摘み」、「里見八犬伝」、「洲崎灯台」などとなった。
- ・ 認知度が低い観光資源は、イベントに集中した。

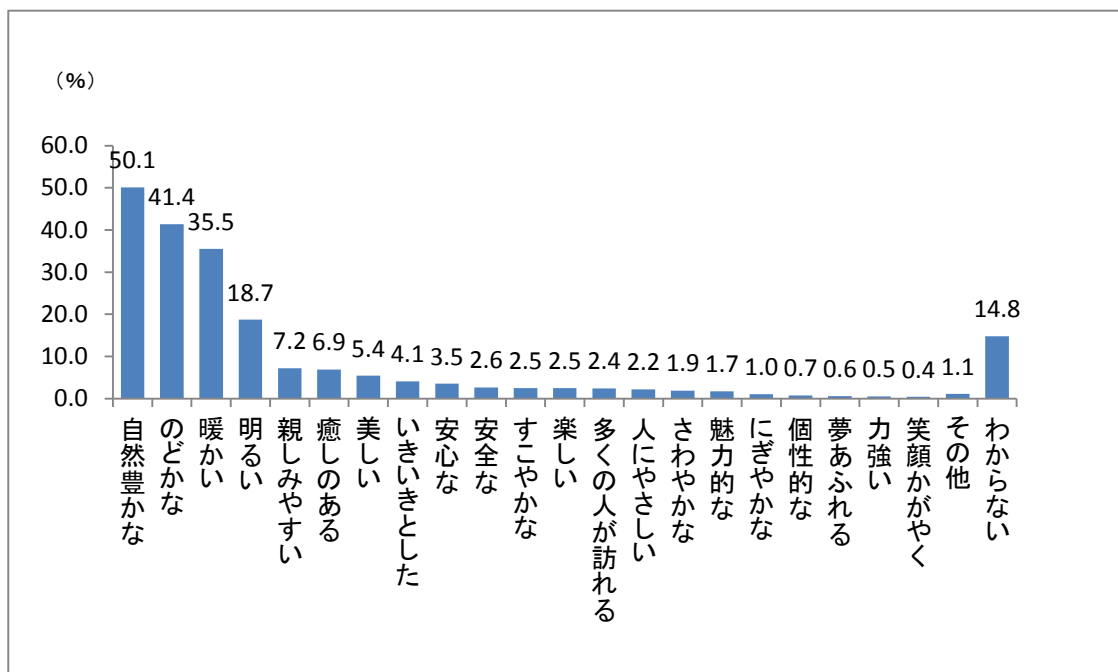
図表番号 32 観光資源の認知度



### ⑬ 館山市のイメージ

- ・ 館山市のイメージを表す言葉では「自然豊かな」が最も高く、「のどかな」、「暖かい」、「明るい」などが続いた。

図表番号 33 館山市のイメージ

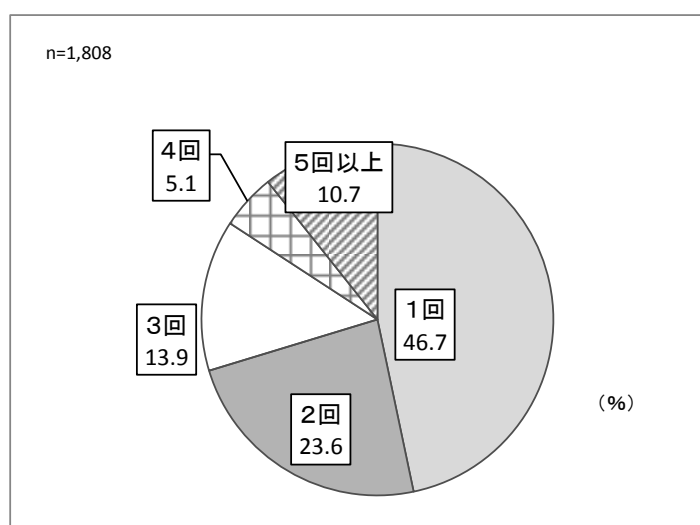


### (4) 国内旅行一般について

#### ① 1年間の国内旅行の回数

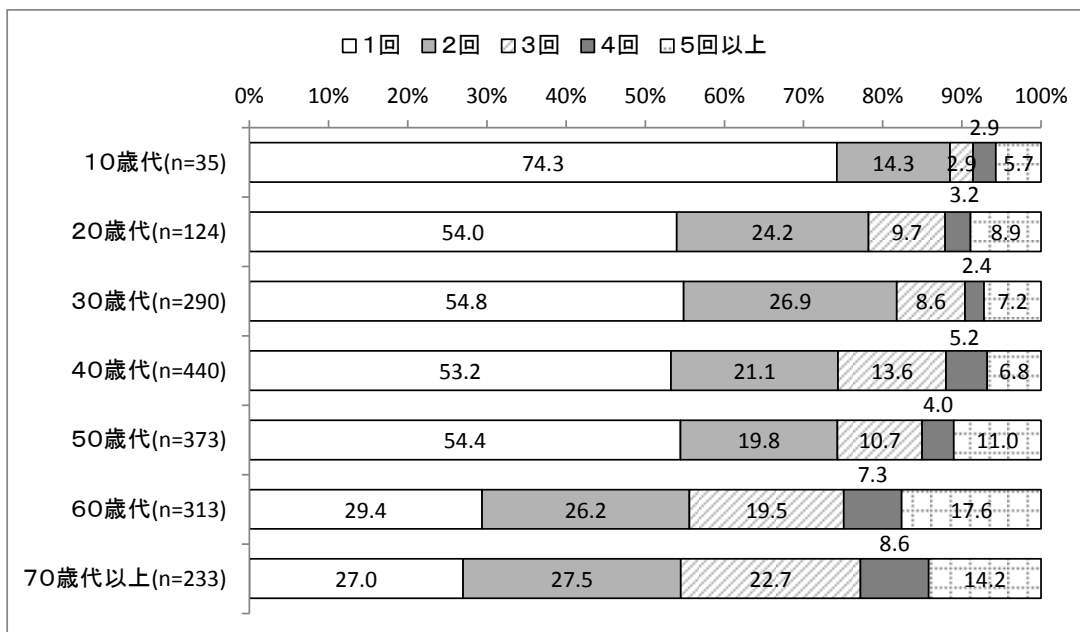
- ・ 1年間の国内旅行の回数は「1回」が最も割合が高く、半数近くを占めた。

図表番号 34 1年間の国内旅行の回数



- ・ 1年間の国内旅行の回数を年代別にみると、50歳代より若い世代では、「1回」が半数以上を占めているが、60歳代以上では「1回」、「2回」、「3回」の割合がほぼ均等となり、「5回以上」も1割を超えた。

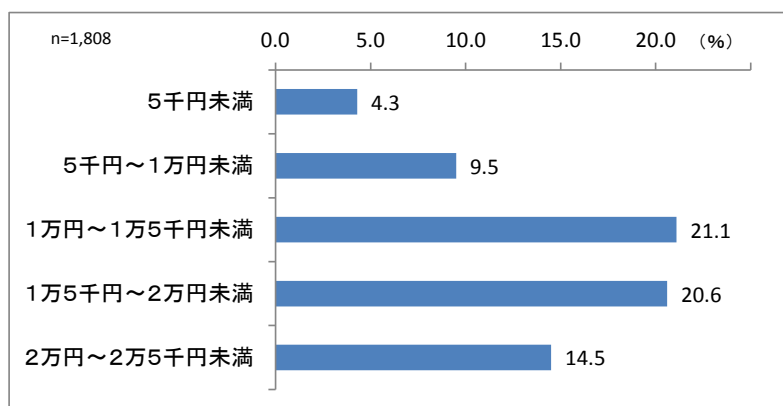
図表番号 35 1年間の国内旅行の回数(年代別)



## ② 国内旅行1人あたりの予算

- ・ 国内旅行における1人あたりの予算は、「1万円～1万5千円未満」と「1万5千円～2万円未満」に回答が集まった。

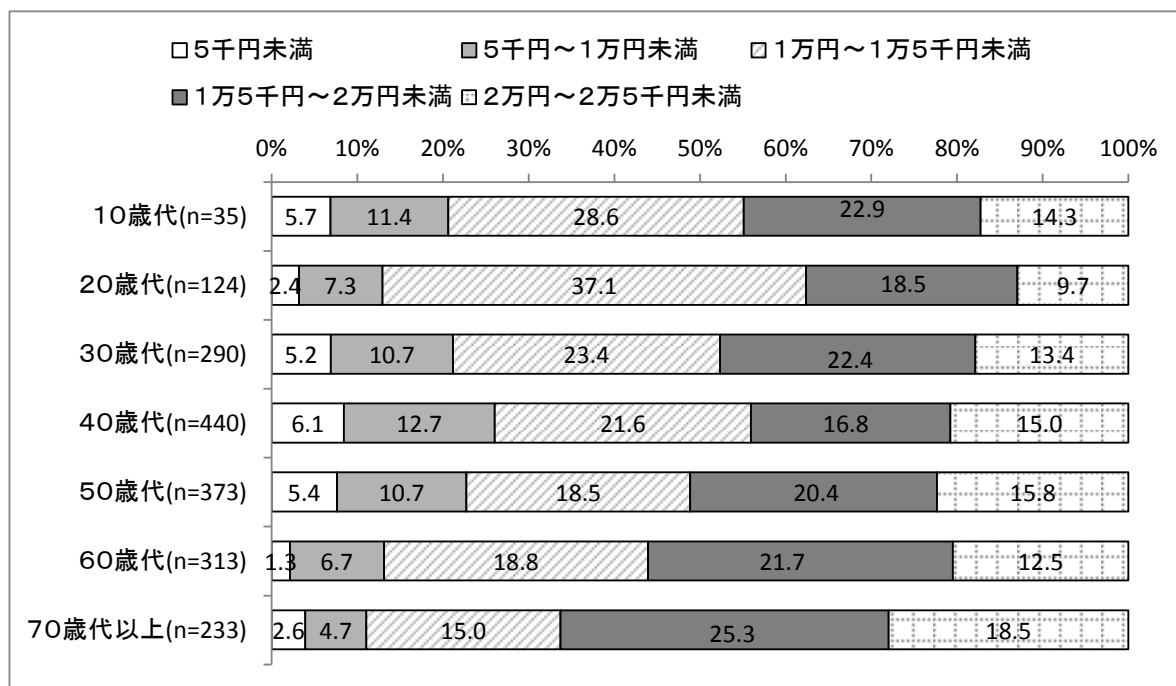
図表番号 36 国内旅行1人あたりの予算





- ・国内旅行1人あたりの予算を年代別にみると、年齢が高くなるにしたがって予算額も高くなる傾向となった。

図表番号 37 国内旅行1人あたりの予算(年代別)

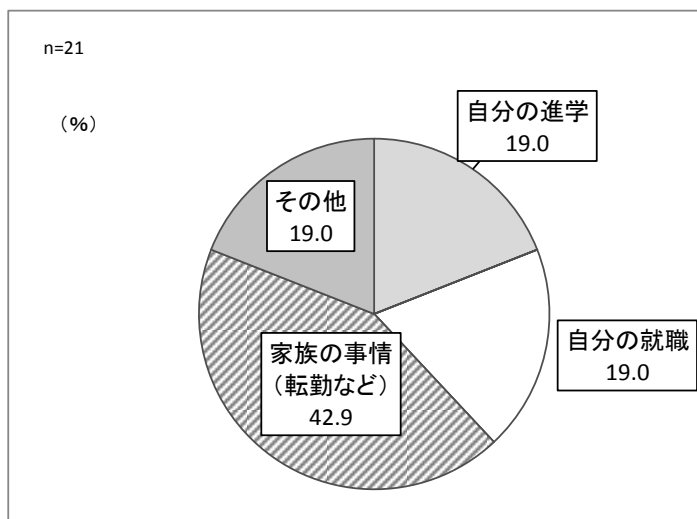


## (5) 移住について

### ① 転出理由

- ・館山市に居住経験がある回答者(21名)に対して、転出の理由を尋ねたところ、「家族の事情」が最も割合が高く、「自分の進学」「自分の就職」が続いた。「結婚」は回答者がいなかった。

図表番号 38 転出理由



## ② Uターン希望・実現に必要なこと

- ・ 館山市に居住経験がある回答者の、館山市へのUターン希望については、「希望している」は1名のみとなった。「希望していない」は半数、「わからない」は4割となった。
- ・ Uターンを実現するために必要なこととして、「通勤可能な地域に仕事があること」を挙げていた。

図表番号 39 Uターン希望

